

女は魔物。…かたちは菩薩、心は鬼。

女殺油地獄

おんなごろしあぶらのじごく

樋口可南子
●
藤谷美和子
●
堤真一
●
長門裕之
石橋蓮司
●
辰巳琢郎
佐々木すみ江
山口弘美
奈月ひろ子
うじきつよし
●
岸部一徳
井川比佐志

製作：村上光一、奥山和由
企画：堀口壽一、西岡善信
プロデューサー：能村庸一
池田知樹
原作：近松門左衛門
脚本：井手雅人
撮影：森田富士郎
美術：西岡善信
音楽：佐藤 勝
照明：中岡源樹

製作：株式会社フジテレビジョン、京都映画株式会社
製作協力：映像京都株式会社
配給：松竹株式会社

五社英雄監督作品

近松門左衛門原作
五社英雄監督作品



女殺油地獄

おんなころしあぶらのじごく

解説

女の魔性と、男の純情があやなす妖美にして凄惨な愛の地獄絵図——近松門左衛門の不朽の名作「女殺油地獄」が、今ここに新たなスポットをあびてスクリーンによみがえろうとしている。

『日本のシェークスピア』とも称される近松は数多くの愛の傑作を生み出しているが、なかでも「女殺油地獄」は、男と女の不思議な愛の姿を追って、時代をこえて生き続ける永遠の名作と名高い評価を得ている。それだけに古典悲劇として浄瑠璃や歌舞伎での上演にとどまらず、しばしば若き演劇人達により新しい視点で舞台化され、映画化もなされてきた。今回は、そのテーマを不倫にしばらくこみ、人間の奥底にひそむ魔性のヒダを華麗に描き出そうという意図での映画化である。

物語は、油屋の女房・お吉が、油まみれの無惨な死体となって発見されるところからはじまり、お吉がかつて奉公し乳母がわりまでした河内屋の息子・与兵衛との関わりのなかで、妖しい女の性を燃



え上からせてゆく姿が、多彩な人間模様を交えてドラマティックにつづられていく。なぜ、お吉は殺されなければいけなかったのだろうか——サスペンスフルなストーリー展開のなかで、愛の悲劇が浮きぼりにされていく。

メガホンをとるのは、五社英雄監督。これまで女の情念世界をダイナミックな映像で描き続けてきたが、そのきわめつけとして近松の世界に挑戦する。脚本は日本シナリオ界の重鎮・故井手雅人。撮影・森田富士郎、美術・西岡善信と日本映画を代表するスタッフが集結する。

男を惑わす凄艶なヒロイン・お吉を演ずるのは、「陽炎」で五社監督と初コンビを組み鉄火な女主人公を好演した樋口可南子。与兵衛役はニュータイプの個性派として注目と期待が集まる堤真一。与兵衛をきりきり舞いさせる今一人の女・小菊に藤谷美和子。ユニークな主役トリオをかこんで、井川比佐志、岸部一徳、長門裕之、佐々木すみ江、石橋蓮司ら芸達者が共演。また、CF等で活躍中の新人山口弘美が、ドロドロとした愛憎ドラマに可憐な花を添える。



—キャスト—

豊島屋 お吉——樋口可南子

小倉屋 小菊——藤谷美和子

河内屋 与兵衛——堤真一

小倉屋 市兵衛——長門裕之

油搾親方 茂助——石橋蓮司

河内屋 太兵衛——辰巳琢郎

河内屋 おさわ——佐々木すみ江

河内屋 おかち——山口弘美

小倉屋 お品——奈月ひろ子

小倉屋手代 嘉平——うじきつよし

豊島屋 七左衛門——岸部一徳

河内屋 徳兵衛——井川比佐志

—スタッフ—

製作：村上光一、奥山和由

企画：堀口壽一、西岡善信

プロデューサー：能村庸一、池田知樹

脚本：井手雅人

撮影：森田富士郎

美術：西岡善信

音楽：佐藤勝

照明：中岡源桓

製作：nettv フジテレビジョン、京都映画株式会社

製作協力：映像京都株式会社

配給：松竹株式会社

5月23日(土)より大公開！
特別鑑賞券(一般¥1400/学生¥1200)発売中

紀伊國屋ビルうら

新

宿

松

竹

03(3356)4881